受賞おめでとうございます

「寄居町表彰」や「国民健康保険健康世帯表彰」、「公衆衛生連絡協議会献血協力者表彰」など、さまざまな分野で功績を上げた方を表彰しました。

〈敬称略〉

寄居町表彰　功労表彰

広く町民の模範となる功績を上げた12人の方と1団体を表彰しました。

町政の振興発展に多年にわたって貢献し、その功績が特にすぐれた方

伴場力（牟礼）

社会福祉の増進に寄与し、その功績が特にすぐれた方

鹿島まき子（本町）、豊田登茂子（露梨子）、新井弘三（木持）、本間登志子（武町）

教育文化の向上に寄与し、その功績が特にすぐれた方

戸澤三郎（立ケ瀬）、戸澤治子（立ケ瀬）、小林トミ子（用土6）、新井悠香（山崎）、坂本星璃（保田原）、杉田咲蘭（本村）、池田彩華（用土5）

その他特に表彰に値すると認められるもの（寄附）

株式会社ＴＫＣ

国民健康保険健康世帯表彰

平成31年4月から令和2年3月までの1年間、医療機関にかからずに健康であり、保険税を完納された世帯で、その年数が継続して一定の年数を超えた85世帯を表彰しました。

3年以上40世帯、5年以上32世帯、10年以上10世帯、15年以上1世帯、20年以上1世帯、25年以上1世帯

公衆衛生連絡協議会献血協力者表彰

献血回数が10回以上になった3人の方を表彰しました。

石川繁（平倉）、山岸久祥（露梨子）、木部幸雄（武町）

農業に関する図画コンクール

農業委員会主催の「第27回農業に関する図画コンクール」の入賞者が決まりました。応募総数149点。いずれも町内の小学生が、農業について真剣に考え描いた力作ばかりです。ここでは、その中から選ばれた最優秀賞受賞作品と入賞者をご紹介します。

最優秀賞「みんなでしゅうかくだ！！」
羽鳥　隆成(用土小2年)

＜敬称略＞

最優秀賞	羽鳥　隆成（用土小2年）	
優秀賞（8人）	福田　梨恵（寄居小2年）	加藤　志野（男衾小1年）
	梅澤　愛莉（桜沢小4年）	鶴田　純芽（男衾小3年）
	村田　八重（鉢形小3年）	榎本　翔琉（用土小3年）
	野村　梓乃（鉢形小6年）	米山　清順（用土小3年）
優良賞（25人）	関谷　颯（寄居小2年）	原口　莉緒（鉢形小2年）
	恩田　早菜（寄居小3年）	菊地　柚月（鉢形小3年）
	清水　優里（寄居小3年）	松村　徳真（鉢形小5年）
	福田　彩恵（寄居小4年）	小林　大翔（鉢形小6年）
	藤田　奈歩（寄居小4年）	板倉　陽向（男衾小1年）
	鈴木　唯人（寄居小5年）	阪本　芽唯（男衾小5年）
	深田　彩葉（桜沢小1年）	川﨑　駿介（男衾小6年）
	柴﨑　夢大（桜沢小4年）	齊藤　瑞華（用土小1年）
	町田蓮志朗（折原小3年）	荒木　旺汰（用土小3年）
	杉山陽菜子（折原小4年）	金子　陵玖（用土小3年）
	牛久保美來（鉢形小1年）	船橋　心絆（用土小3年）
	平澤　楓太（鉢形小1年）	齊藤　智華（用土小4年）
	大屋　達輝（鉢形小2年）	

寄居町交通安全ポスター・作文コンクール

町交通安全対策協議会主催の「第38回寄居町交通安全ポスター・作文コンクール」の入賞者が決まりました。
悲惨な事故をなくし、暮らしやすい社会を築くため、小学生が真剣に考えた力作となっています。

＜敬称略＞

	ポスターの部	作文の部
埼玉県知事賞	峯岸　煌雅（男衾小5年）	新井　響（男衾小6年）
寄居警察署長賞	倉林　快成（寄居小5年）	權田明日美（男衾小5年）
寄居町長賞	杉浦　日南（桜沢小6年）	菊池　映介（男衾小6年）
寄居町議会議長賞	千葉　栞（桜沢小4年）	白木秀二郎（男衾小4年）
寄居町教育委員会教育長賞	大嶋さくら（男衾小6年）	金子　結理（男衾小6年）
寄居町交通安全母の会会長賞	大北　千尋（桜沢小5年）	内田愛優乃（桜沢小4年）
入　選	内田　夢佳（桜沢小6年）	及川　あこ（折原小6年）
	藤巻　拓也（折原小6年）	木村　友香（男衾小6年）
	髙橋　達也（折原小6年）	大久保桃菜（男衾小6年）
	中嶋　紅愛（男衾小6年）	金子　理緒（男衾小6年）
	光岡　史織（男衾小6年）	吉井　優斗（折原小5年）
	須谷くるみ（桜沢小5年）	櫻田　華萌（男衾小5年）
	遠藤　瑛太（桜沢小5年）	石澤　心晴（男衾小5年）
	吉田　聡介（男衾小5年）	小島　遙華（桜沢小4年）
	小池　帆夏（男衾小5年）	峯岸　優妃（桜沢小4年）
	塩川　真央（男衾小5年）	大澤　志歩（男衾小4年）
	千葉　葵（桜沢小4年）	吉田こころ（男衾小4年）
	西東　楓（折原小4年）	
	中村蔵之介（鉢形小4年）	
	塩川　航平（男衾小4年）	
	浅見　奏斗（用土小4年）	

埼玉県知事賞
峯岸　煌雅(男衾小5年)

埼玉県知事賞
「交通事故にあわないためには」
新井　響（男衾小6年）

「えっ!?事故。」

お母さんの大きな声に私はどきっとした。

今から二年前のその日、トラック運転手のお父さんはいつものように夜仕事のため家を出た。それから十分位してお母さんのけい帯電話が鳴った。電話の相手はお父さんだった。

「それで、ぶつけられたの?。」

「相手は?…信号無視!?。」

お母さんの声が聞こえるたびに私の心臓の音は自分でもわかるくらい、ドキドキと大きくなっていった。そろそろねようとしていたことなど忘れて電話をしているお母さんを見ていた。（お父さんは大丈夫かな?けがしてたらどうしよう。）と、とても不安な気持ちがどんどんふくらんでいった。

それから電話を切ったお母さんは私にお父さんが会社へ行く途中に交通事故にあったと話してくれた。青信号で走っていたお父さんの車に信号無視をした車がつっこんできたようだった。お父さんは大丈夫だからねと言われても不安な気持ちが消えてなくて、お父さんの所にかけつけたお母さんをおじいちゃんと待ってる時もお父さんの元気なすがたを見るまで泣きそうな気持ちをがまんしていた。そしてお母さんと帰ってきたお父さんを見た瞬間安心した気持ちとうれしい気持ちが、がまんしていた気持ちとまざり合って泣いてとびついていた。

お父さんに車をぶつけた人は駅に子供をむかえに行くところで事故をおこしたと聞いた。つかれていて信号が赤だったのに気づいたのはぶつかった後だったそうで、その話を聞いた時、私はあらためてこわくなった。

なぜならその事故で車はこわれてしまったけど、私のお父さんもぶつけた人も大きなけがをせずにすんだからよかったけど、もし一つ一つよくないタイミングが重なっていたらもっと悲しいことになっていたからだ。ぶつけた車の方が、もっと大きかったら、ぶつけた人がもっとスピードを出していたら、考えただけでぞっとした気持ちになった。

この事故があってから、私は交通事故というものは誰にでも起こる可能性があるものだということを学んだ。そして気をつけていてもちょっとの気のゆるみやぐう然で起きてしまうものだということにも気づいた。登下校中にもたまにだけど乱暴な運転をしたり信号が変わっているのに無視して走ったりする車はいるけど、事故にあってから後悔してもおそいのになといつも感じている。

いつでもどこでもだれでも起こす可能性のある交通事故を起こさないようにするには、車、自転車、歩行者、皆が気のゆるみを自覚してルールを守ることをてっていしていくべきだと思う。

二年前に感じたあの時の不安な気持ちはもう味わいたくないし、だれにも味わってほしくないから、みんなが悲しい気持ちになる交通事故が起きないように心がけていきたいと思う。